

おかげさま



雨戸を開け本堂の解錠お明かり山門の開扉、湯沸し炊飯仏飯作り、一連の朝のお仕事の時、ポケットからradioの音が聞こえてくる。

毎朝粗同じ時刻に同じ番組、「〇月〇日、今日は何の日？」一年365日、それぞれ思い入れのある日として名づけられている。同じ日に十や二十ではない、多くの名前が付けられている。そして、今も増え続けている。

古来日本において「四月八日」はお釈迦さまのお生まれになられた日とされています。「釈尊（仏祖）降誕会」、花御堂の誕生仏に甘茶を灌ぐので「灌仏会」などと呼ばれ法要が勤められてきました。白い象に花御堂を乗せお生まれになられたばかりのお釈迦さまをご安置し甘茶をかけて祝うので、「花まつり（この言葉はドイツに由来がある）」と呼んでいます。仏教になじみの薄い若者にも共に祝ってもらおうと、この日を祝う呼び掛けが各地で、さまざまな言葉でなされました。

『メリシャカ（メリーシャカムニ）』『ハッピーブッダ（ハッピーバースデーブッダ）』『ブッダバイ（仏陀と共に）』

京都西本願寺（浄土真宗本願寺派本願寺）では、1月を除く2月から12



月の毎月16日を「Shinran's Day」として、さまざまにイベントや行事を開催している。

毎月16日は、「Shinran's Day」です。

ところで、4月25日は何の日ですか。

「恵信尼さまの日」なのです。大正時代に西本願寺の蔵から見つかった「恵信尼消息（恵信尼さまから末娘の覚信尼さまに宛てたお手紙）」の中、最後のお手紙に記されている日付は、旧暦3月12日であり、新暦では4月25日前後にあたるこ

ととから決定したと言われています。ちょうどこの時期は恵信尼さまの五輪の塔がある越後に、こぶしの花が咲く頃でもあります。

1986 (昭和61) 年、国連が「国際平和年」と定めた年に、日本で「第8回世界仏教婦人会大会」開催されました。



日本が提出した議案「平和を考える」の主旨は仏教婦人としての平和への取り組みや関わりを考えて、実践に一步踏み出そうというものでありました。仏教婦人会では、恵信尼さまの日 (4月25日) を「平和の日」と定めています。

2月の第2日曜日は何の日ですか。

世界中の仏教婦人会会員が一斉に、物心両面でのダーナ (布施) の行動を行う日なのです。但し日本では、九條武子さまのご命日、如月忌との関わりで、2月7日を「ダーナの日」と言うことが多い。

1965 (昭和40) 年5月に、第2回世界仏教婦人会大会がニューヨークで開催されました。この時『慈悲の心で平和を』がテーマとなり、具体的

あけしの郷 明石山樹覚寺
参加をお待ちしています

真実の歩みは安心の歩み 念仏とともに

五月一日	晨朝会
五月八日	本堂仏具磨き
五月八日	樹覚寺仏教婦人会例会
五月十二日	親鸞聖人降誕会法要
五月二十六日	樹覚寺仏教壮年会総会
六月一日	晨朝会
六月十一、十三日	栃木南組念仏奉仕団
六月十八日	法話会
七月一日	晨朝会
七月八日	樹覚寺仏教婦人会例会
七月十八日	法話会
八月一日	晨朝会
八月八日	仏壮仏婦物故者追悼法要
八月十三、十六日	お盆
八月十六日	孟蘭盆会法要
八月二十、二十三日	お寺の臨海学校 (千葉)
九月一日	晨朝会

に実行するために、「布施の日を毎年2月第2日曜日に制定、物心両面からの布施行を行うこと」を決議しました。

そのうち、浄土真宗版「今日は何の日」ができたらいいね。

「浄土真宗版今日は何の日」

あけし酔話

お釈迦さま物語

入滅(にゆうめつ)

雨期が終わる頃、少し体力を回復したお釈迦さまが托鉢をしながら「私がこの風景を見るのは、これが最後であろう」と話されるのを耳にしたアーナンダは、最後の時が近いことを知らされるのでした。

入滅の時の近いことをわかったお釈迦さまは「すべては移り変わる。片時として止まることを知らないのであるから、怠ることなく努力して、修行を完成させなさい」と、お弟子方を励ますのでした。

ヴェーサーリーより幾多の村を経て、パーヴァー村に着いた一行は、鍛冶工のチュンダが所有するマンゴー林に滞在していました。

お釈迦さまの説法に感動したチュンダは、翌日の食事に行方を招待しました。

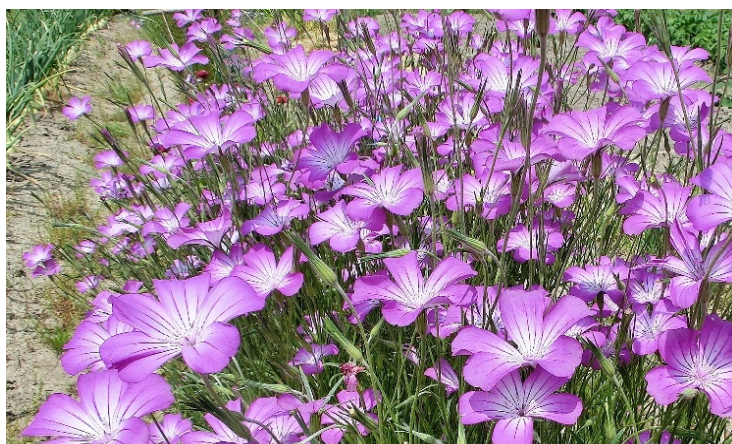
この時の料理が、豚肉料理とも、きのこ料理とも伝えられていますが、八十歳という高齢のお釈迦さまに差し出すことを考えると、消化の悪い豚肉は考えにくいのではないのでしょうか。ともかくチュンダの供した料理を食されたお釈迦さまは、激しい下痢と痛みにおそわれたのです。



あけふ あれこれ

むぎせんノウ (麦仙翁)

そよ風にそよそよと揺れる姿に、何と淑やかにしなやかな美しい草なのだろうと見とれてしまいました。花の色も”彩”という字を当てたい爽やかな花です。思いもかけずかわいい苗を身内から頂き感激でした。



楚楚としたか弱そうな花なので、大切に育てないといけないと、気にかけて見守りました。とても華奢な草と思いましたが、以外にとっても細い茎で背が高いわりにしっかりと立っています。柔軟性に富んでいるのです。



ムギセンノウ (麦仙翁)
アグロステンマ、麦撫子 (むぎなでしこ)・撫子 (なでしこ)
科。ムギセンノウ属

★Agrostemmaは「agros (野原) + stemma (花冠)」が語源。

★明治時代初期の頃に日本

に渡来。葉っぱは細長く、「麦」にたとえられる。うすいピンク色の花が咲く。ヨーロッパでは”麦の雑草”としてたくさん生えてくるらしい。白い花のものもあるようです。

